

北海道大学からのメッセージ

北海道大学は、皆様に支えられ活動を行っています。今後も、皆様からのご支援に対する説明責任を果たしながら、教育研究の発展を目指します。



地域の皆様へ

企業の皆様へ

大学病院
ご利用の
皆様へ

在学生・
受験生の
皆様へ

国民の
皆様へ

Accountability

北海道大学からのメッセージ

国民の皆様へ

国からの財政投入

●出資・承継

平成16年の法人化にあたり、国からの出資として1,549億円を資本金に計上しています。資本金の内訳としては、土地や建物等の旧国有財産と、財政投融資資金等からの借入により取得していた資産の合計額から借入金の合計額を差し引いた差額等が計上されています。この他に、物品や債権等についても法人化時に国から承継しています。

なお、平成18年度及び平成20年度に、国から出資された土地の一部（研究林、留学生会館）を売却したため、これまでに1億8千万円の減資を行っています。

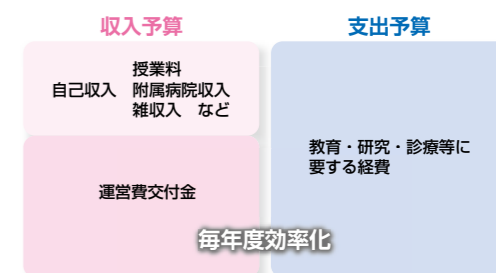
●運営費交付金

大学の業務運営の財源として運営費交付金が交付されています。

本学への平成21年度の交付額は393億円で、大学全体の収入の約39%に相当します。

運営費交付金は、授業料や附属病院収入等の収入予算と、教育・研究・診療等の実施に要する支出予算との差額として、国が算定し交付されます。なお、第1期中期目標期間の運営費交付金の算定ルールには、交付金を毎年度1%ずつ削減する効率化係数や、附属病院の収入を毎年度2%ずつ増収することを義務づける経営改善係数が導入されており、本学は効率化に対応しつつ業務運営にあたっています。

運営費交付金算定イメージ



●施設費等

建物の整備等の固定資産の取得を行う場合など施設整備に要する経費として施設整備費補助金が交付されています。また、国立大学法人等の土地処分収入等を財源として施設整備（主に営繕事業）資金を交付する国立大学財務・経営センター施設費交付事業の制度も設けられています。

本学への平成21年度の施設費等交付額は50億円で、大学全体の収入の約5%に相当します。

本学では、国からの施設費等と自己財源をあわせ、中長期的な整備計画に基づき様々な施設整備を実施しています。

教育研究環境の整備状況は41ページ参照

業務実施コスト（国民の皆様にご負担いただいているコスト）

国民の皆様が大学の活動に対してどれだけコスト負担をしているかを明らかにするために「国立大学法人等業務実施コスト計算書」を作成しています。このコスト計算書は、損益計算書上のコストを元に、損益計算書には計上されないが広い意味で最終的に国民の負担に帰すべきコストを加え、国民の直接の負担とはならない自己収入等を除いて算出したものです。

平成21年度の本学の業務実施コストは481億円です。これを国民総人口（約1億2,751万人）に基づき国民一人当たりで換算したコスト負担額は約377円となります。

国立大学法人等業務実施コスト 481億円

国民一人当たりコスト負担額 約377円
業務実施コスト（481億円）÷人口（1億2,751万人）

※人口：平成21年10月1日現在 総務省統計局データより

経年推移は28ページ参照

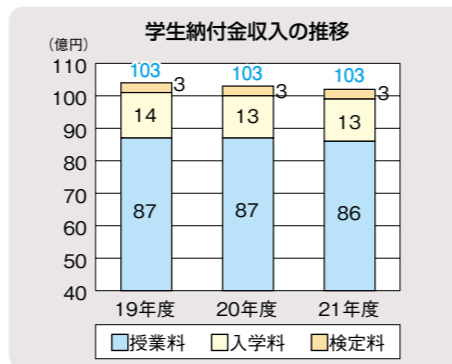
在学生・受験生の皆様へ

学生納付金収入

平成21年度における学生納付金収入は、授業料86億円、入学料13億円、検定料3億円、総額103億円であり、大学全体の収入の約1割を占めています。

本学では、受験生の利便性向上を目的として、平成22年度入試において、入学願書のインターネット出願及び検定料のクレジットカード決済を、一部研究科等の入学試験において試行実施しました。

学生納付金の関連情報は45ページ参照



入学料・授業料免除制度

経済的理由から入学料又は授業料の納付が困難で、かつ、学業優秀と認められる学生には、全額もしくは半額を免除又は徴収を猶予する制度があります。

平成21年度においては、入学料2千6百万円、授業料5億8千3百万円を免除しました。

平成21年度免除実績 (単位：人)

区分	学部	大学院	法科大学院	合計
授業料免除者	1,792	2,184	156	4,132
入学料免除者	2	141	23	166

※上記の授業料免除者数は、前・後期の延べ人数です。

奨励・表彰・助成制度

奨励金～学業・研究に熱心に取り組む学生を称える奨励金制度があります

- 新渡戸賞 (21年度実績：89名、各20万円)
- 大塚賞 (21年度実績：10名、各50万円)

表彰制度～成績優秀者を対象とする表彰制度、課外活動で優秀な成績を修めた学生を対象とする表彰制度があります

- えるむ賞
- ペンハロー賞
- レーン記念賞

奨学金～本学独自の奨学金として、「総長奨励金」と「私費外国人留学生特待制度」の2種類があります

区分	対象	支給額
総長奨励金	本学と交流協定を締結している外国の大学等の出身で大学院入学を希望する学業成績優秀等の留学生を対象	修士課程6名、博士課程5名に対して1千6百万円を支給
私費外国人留学生特待制度 ①特待プログラム奨学金 ②外国政府派遣留学生奨学金	大学院博士課程に入学を希望する外国人留学生で学業成績優秀等の留学生を対象	①博士課程34名に対して2千2百万円を支給 ②博士課程等57名に対して2千4百万円を支給

一時金貸付制度

留学生が、臨時にお金が必要となった時、審査のうえ5万円を上限として6か月間無利子で貸し付ける制度です。

北大元気プロジェクト

学生が自主的に企画・立案を行い、キャンパス生活の充実、地域社会との連携及び本学のPR活動などに対し、その経費の助成を行うものです。平成21年度は、42件の応募のうち25件の企画を採択し、プロジェクトに必要な経費(1件当たり50万円以内)1千万円の助成を行いました。

北海道大学クラーク記念財団助成事業

(財)北海道大学クラーク記念財団では、本学の教育研究、学生支援等に対して毎年助成事業を行っており、平成21年度における学生への研究助成事業は総額4千1百万円となっています。

事業内容	採択件数	助成額
教育研究活動支援事業	博士後期課程在学研究助成 16件	7,950千円
	博士後期課程在学海外派遣助成(学会等発表) 15件	2,186千円
教育研究国際交流支援事業	学部学生等海外派遣助成(留学) 長期留学 24件・短期留学 9件	6,630千円
	外国人留学生奨学金助成(給付・単年度限り) 3件	1,800千円
	学部学生奨学金助成(貸与) 新規 10件・継続 24件	19,860千円
奨学育英事業	学業優秀者表彰助成(クラーク賞) 50件	880千円
その他の事業	学術講演会等助成 3件	1,600千円

TA・RA経費

TA(ティーチング・アシスタント)とは、優秀な大学院生を教員の指導のもとに、教育補助業務を担当させる制度です。大学教育の充実・改善につながり、大学院生に教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供することを目的としています。

RA(リサーチ・アシスタント)とは、優れた大学院博士後期課程の在籍学生を研究プロジェクト等の研究補助者として参画させる制度です。研究活動の効果的促進と若手研究者としての研究遂行能力の育成を目的としています。

平成21年度は、これらの大学院生に2億4千6百万円を支給し、大学院生の経済的支援を行っています。

平成21年度支給実績 (単位：百万円)

区分	20年度	21年度
TA	195	190
RA	54	56
合計	249	246

教育関係経費

平成21年度における学生の教育に要した経費の総額は、213億円となっています。

この教育関係経費を学生一人当たり換算すると年間約120万円となります。

学生の教育に要する経費は学生納付金収入の他、運営費交付金や外部資金等様々な資金によってまかなわれています。

学生一人当たり教育関係経費(年間)約120万円
 教育関係経費(21,274百万円)÷学生数(17,786人)

教育関係経費の内訳 (単位：百万円)

区分	20年度	21年度
教育経費	3,483	4,126
教育研究支援経費	2,767	2,082
損益外減価償却相当額*1	1,726	1,794
教員人件費 [×1/2]*2	13,180	13,272
合計	21,156	21,274

※1 損益計算書に計上されていない経費で、国から出資された資産(1/2を教育用資産としています)や施設費補助金、目的積立金を財源に取得した教育用資産の減価償却費です。
 ※2 教員人件費については、1/2を教育に要した経費としています。

キャンパスの充実

教育活動の充実、発展のために教育環境整備に係る設備投資は不可欠なものです。平成21年度に実施した教育活動施設(福利厚生施設、課外活動施設など)の主な整備事業は以下のとおりです。

- 屋内体育施設新築(通年型競技施設)……………5億8千万円
- 屋内体育施設改修(第一体育館等)……………3億6千6百万円
- 学生寮改修(函館キャンパス北農寮)……………3億4千9百万円
- 学生食堂増築(北部食堂)……………2億6千2百万円
- インターナショナルハウス
北8条5号棟新築……………1億6千3百万円
- 函館キャンパス体育館改修……………1億3千3百万円
- 環境科学院講義棟新築……………1億9百万円

平成21年度は教育目的の建物や備品等の取得に52億円を支出しました。学生一人当たり換算すると年間約29万円となります。

学生一人当たり教育目的設備投資 約29万円
 教育目的設備投資(5,170百万円)÷学生数(17,786人)



通年型競技施設

教育目的設備投資の内訳 (単位：百万円)

区分	20年度	21年度
建物	1,021	2,037
建物附属設備	785	1,220
構築物	21	99
機械装置	88	61
工具器具備品	648	1,473
図書	238	280
美術品	1	-
合計	2,802	5,170

※各年度の有形固定資産(建設仮勘定を除く)の取得額を示しています。



第一体育館



函館キャンパス学生寮(北農寮)



北部食堂

大学病院ご利用の皆様へ

北海道大学病院の使命と役割は、「安心・安全で思いやりのある医療」の提供であり、どのような患者さんをも受け入れる地域医療における最後の砦機能を有している病院でもあります。また、教育・研究施設として、患者さん第一の人間性豊かで高度な医療技術を持つ医療人の育成、生命医科学における新しい先端医療技術の開発研究などに鋭意取り組んでいます。



大学病院の財務状況

平成21年度の財務状況については、患者数の増加や病床稼働率の向上などにより北海道大学病院の業務収益は297億円に増加しており、これは大学全体の業務収益880億円の約34%を占めています。

下表のとおり、企業会計基準における業務損益は黒字を維持していますが、運営費交付金の削減や長期債務の返済負担が多額であるため、北海道大学病院の現金収支は平成18年度から常に不足が生じており、経営は非常に厳しいのが実態です。平成21年度は全学から15億円の財政支援を受け、収支差を補填しています。詳細については、26ページ「大学病院業務損益の推移」をご参照ください。

患者数 (単位：人)				附属病院業務損益 (単位：百万円)			
区分	19年度	20年度	21年度	区分	19年度	20年度	21年度
入院	296,535	302,856	305,767	業務費用	25,791	26,047	26,603
外来	720,674	733,278	752,825	業務収益	29,202	28,838	29,749
計	1,017,209	1,036,134	1,058,592	業務損益	3,411	2,791	3,145

現在までの主な取り組み

診療体制の充実

極低出生体重児や生後間もなく手術治療を必要とする新生児など、集中治療を必要とする新生児には、NICU（新生児特定集中治療室）が必要です。また、NICUでの集中治療後、退院まで時間が必要な新生児には、GCU（継続保育室）が必要です。北海道大学病院では、平成21年5月にNICUを6床から9床に増床し、GCUを7床新設しました。

また、入院患者の方の腎機能障害に対する血液浄化法（人工透析など）の治療サポート体制をより強化するため、平成22年2月に血液浄化部を6床から10床に増床しました。



肝疾患診療拠点病院の指定

北海道大学病院は、平成21年8月24日に「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受けました。

「肝疾患診療連携拠点病院」は、都道府県の中で肝炎治療の中心的役割を担う病院として肝疾患専門医療機関、地域の医療機関（かかりつけ医）と共に診療ネットワークを充実させ、患者さんやご家族の疑問や不安の相談に応じる役割を担っていきます。

社会的ニーズに対応した取り組み

「リンパ浮腫」は、主に乳癌等のリンパ節郭清手術や放射線治療後の合併症としてしばしば発症し、手足のむくみにより生活の質を大きく低下させる疾患です。北海道大学病院では、「リンパ浮腫」の改善と合併症の予防に有効な保存的治療である複合的理学療法（医療徒手リンパドレナージ、圧迫療法など）を提供するため、平成21年12月に『リンパ浮腫ケア外来』を開設しました。

また、高齢者の方々が充実した生活を送るため、単に身体的な見た目を改善する医療ではなく、高齢者の方々の生活の質を確保するための抗加齢医療（アンチエイジング）を提供するため、平成21年5月に『整容・美容外科』を開設しました。

患者サービスの向上

北海道大学病院では、患者さんに安心・快適にご利用いただくため、サービス向上に向けて様々な活動を行っています。

●ふれあいコンサートの開催

患者さんと職員が共に楽しく交流できるように、入院棟1階アメニティホールにて5月中旬に『ふれあいコンサート』、8月上旬に『七夕の夕べ』、12月下旬に『クリスマスコンサート』などを催しています。特に『ふれあいコンサート』は、平成2年度にスタートして平成21年度で19回目の開催になりました。



『七夕の夕べ』での盆踊りの様子

●日本ハムファイターズの選手と院内学級児童・小児科患者との交流

北海道日本ハムファイターズの監督と選手達による、院内学級に通級する子供達と小児科に入院する子供達を激励する会を年に一度、開催しています。これは北海道日本ハムファイターズからのご提案により実現し、平成21年度で3回目を数えます。交流会では、監督と選手の自己紹介・子供達の質問タイムの後、選手とのキャッチボール・記念撮影・サイン会等があり、子供達はこれから病気と闘っていく上での勇気と、かけがえのない思い出をいただきました。



子供たちのサインに応じるダルビッシュ投手

●患者満足度アンケート結果を反映した環境整備

北海道大学病院では、常に患者さんからのご意見・ご要望に耳を傾けるため、ご意見箱や患者相談の他に、毎年度、患者満足度アンケートを実施し、患者さんからのご要望に少しでも応えていけるよう、取り組みを行っています。これまでも外来ホールにある総合案内の拡充や、ベビーカーの設置、体の不自由な方専用の椅子の設置、汚れの目立つトイレの床の張り替えなどを行ってきました。

地域貢献に向けた取り組み－北海道大学病院医療人養成・地域医療支援プロジェクト－

北海道の地域医療における医師不足の解消を図ることを目的に、北海道大学病院が地域の中核病院に継続的・安定的に医師を外向（北海道大学病院より在籍外向）させ、循環するシステムを構築していきます。具体的には、学部卒業後10年以上の臨床経験を有する医師を採用し、1年目は北海道大学病院で指導的専門医としての研鑽を積み、その後2年間を地域病院に在籍のまま外向し、地域病院における勤務を通じて地域医療に貢献すると共に、地域病院の研修医指導にも当たります。

先端医療の研究開発－強度変調放射線治療&人工括約筋を用いた尿失禁の治療－

強度変調放射線治療は、複数のビームを組み合わせることで放射線に強弱をつけ、腫瘍の形に適した放射線治療を行う新しい照射方法です。腫瘍に放射線を集中し、周囲の正常組織への照射を減らすことができるため、副作用を増加させることなく、より強い放射線を腫瘍に照射することが可能になります。

また、人工括約筋を用いた尿失禁の治療は、前立腺がん切除で尿道括約筋が傷つくなどして起こる重い尿失禁に対し、水の入ったカフと呼ばれるリングとチューブ、バルーン、ポンプで構成される合成樹脂製の人工括約筋を操作し、尿道を締めたり緩めたりします。これを手術で腹部に埋め込み、自分の意思で排尿をコントロールできるようにします。この治療を先進医療として受けることができるのは、北海道大学病院を含めて全国で5施設しかありません（2010年4月現在）。

これからも、北海道大学病院では、医学・医療の進歩・発展のため、先端医療の研究開発を行っています。

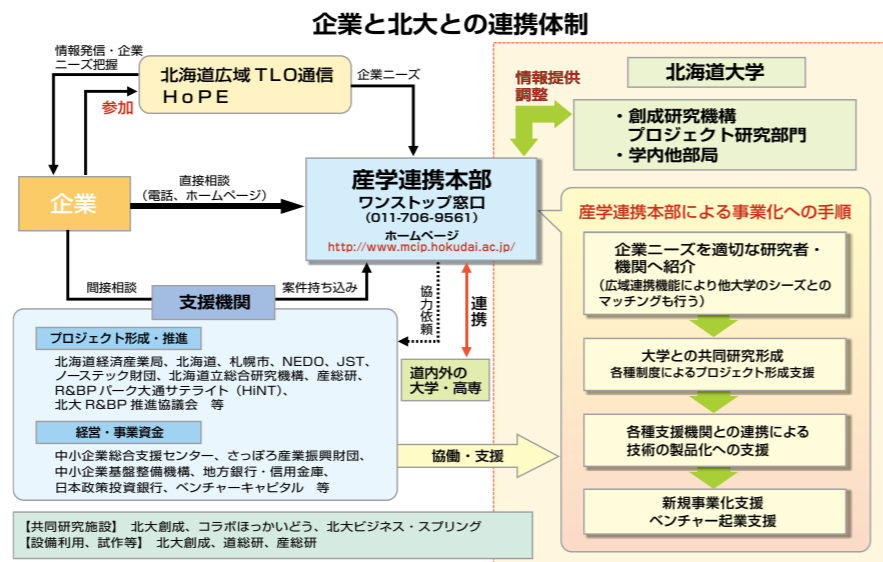
企業の皆様へ

産学連携本部 ～産学連携に関するワンストップ窓口～

本学の基本理念に「実学の重視」があります。これは、基礎研究のみならず応用や実用化を重んじ研究成果の社会還元を重視するという意味で、本学における研究の中には、北海道の産業とともに発展したのも少なくありません。

平成21年4月に知財・産学連携本部を改組して誕生した産学連携本部は、教育・研究に次ぐ第三の使命である社会貢献をより具体的に実現できるよう専門人材の採用等により産学連携機能を強化しました。同年5月には、TLO（技術移転機関）部門が文部科学省及び経済産業省から承認TLOの承認を受けました。

企業の皆様と本学との連携体制は右図のとおりです。産学連携本部がワンストップ窓口となり、本学各部局や道内他大学・支援機関等とのコーディネートを行っています。



アクセス方法：北海道大学HPトップ▷研究・産学連携▷産学連携本部

広域連携・地域連携 ～道内他大学・支援機関等との連携による社会貢献～

本学の産学連携活動の特徴の一つは、道内他大学等との連携・協力による広域連携と、研究開発や事業化、経営等の分野ごとの地域の支援機関等との連携・協力による地域連携です。これは、主として道内中小企業の皆様との効果的な連携を推進するためのものです。道内中小企業の皆様のニーズは多様で、本学だけでは対応できない場合がありますが、このような連携・協力関係を活用することで、幅広い分野でステージに応じたお手伝いが可能になりました。情報提供から技術相談、共同研究、事業化プロジェクト、大学発ベンチャー支援まで幅広く対応しています。

また、大学の研究情報等を「北海道広域TLO通信」として、平成21年11月に創刊した月刊のメールマガジンで、北見工業大学・酪農学園大学・室蘭工業大学・本学の技術シーズや研究室・研究者情報を提供するとともに、企業、特に道内中小企業の皆様のニーズをお聞きしています。料金は無料で、現在、約1,400の企業等（平成22年7月現在）に配信しています。

さらに、道内中小企業の新分野進出をお手伝いするため、道内中小企業の皆様の産学官連携に取り組むHoPE（北海道中小企業家同友会の産学官連携研究会）との連携を強化しています。

今後も、道内外の大学等や支援機関との連携を強化し、産学官連携機能の充実・強化に取り組んで参ります。

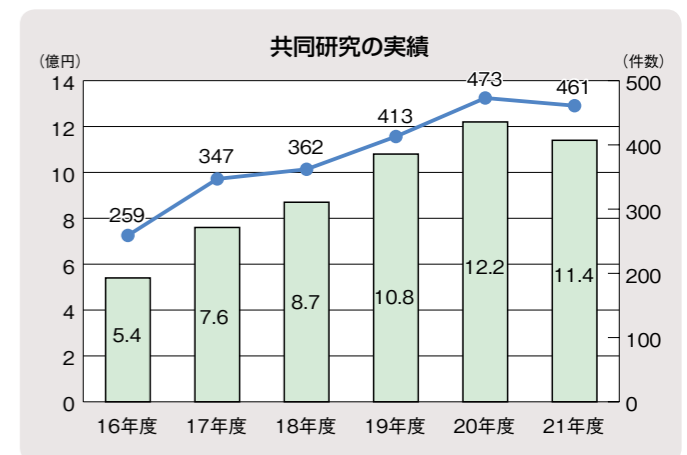
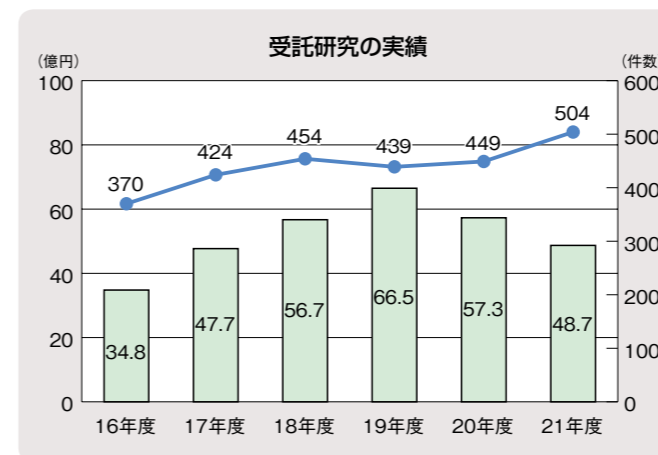
道内他大学・支援機関等との連携協定締結状況（産学連携関係のみ）

連携協定の相手先	協定締結年月日
財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）	平成21年 6月 2日
国立大学法人北見工業大学	平成21年 6月 4日
学校法人酪農学園 酪農学園大学	平成21年 6月 4日
国立大学法人室蘭工業大学	平成21年10月 5日
函館工業高等専門学校・苫小牧工業高等専門学校・釧路工業高等専門学校・旭川工業高等専門学校	平成21年12月15日
一般社団法人北海道中小企業家同友会産学官連携研究会HoPE	平成22年 6月30日

受託研究・共同研究

大学の研究者が企業等から委託を受けて研究を行う「受託研究」及び大学の研究者と企業等とが共同で研究に取り組む「共同研究」における本学の実績は以下のとおりです。産学連携への取り組みにより、受入件数及び受入金額は増加傾向で推移しています。

今後も、長期的視野を持った基礎研究から社会の要請に応える応用研究まで、創造性豊かな研究を行い、その成果を社会に還元していきます。



分野別受入件数

年度	研究分野									合計
	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・創薬	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	
16年度	151	17	60	57	14	15	19	14	23	370
17年度	180	33	73	56	16	14	12	6	34	424
18年度	180	35	77	40	27	35	13	4	43	454
19年度	158	35	68	37	30	29	13	5	64	439
20年度	156	31	86	44	45	27	12	5	43	449
21年度	216	30	90	42	35	55	8	4	24	504

分野別受入件数

年度	研究分野									合計
	ライフサイエンス	情報通信	環境	ナノテクノロジー・創薬	エネルギー	製造技術	社会基盤	フロンティア	その他	
16年度	84	37	28	30	13	43	11	9	4	259
17年度	139	28	33	60	11	44	16	4	12	347
18年度	130	16	42	42	22	91	7	2	10	362
19年度	136	16	47	48	28	119	3	1	15	413
20年度	146	16	51	57	28	153	2	7	13	473
21年度	147	27	44	48	33	149	4	3	6	461

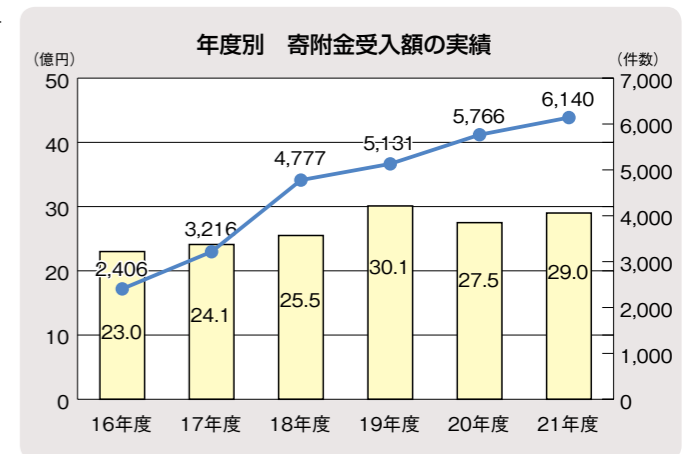
寄附金

寄附金は、大学において企業や個人篤志家から研究教育の奨励を目的とする寄附金を受け入れて、学術研究や教育の充実発展に活用する制度です。

寄附金は、各種研究設備や図書等の充実など寄附の趣旨に沿って機動的に使用され、その成果を通じて、本学のみならず広く社会に貢献しております。

また、教育研究の奨励を目的とする企業等からの寄附を有効に活用して、大学の自主性及び主体性のもとに「寄附講座・寄附研究部門」を設置・運営する制度もあります。

なお、右記のグラフは、「寄附講座・寄附研究部門」を含めた大学全体の寄附金受入額を示しています（図書等の現物寄附を除く）。



産業界と大学を結びつける新たな情報システム

産業界の求めるもの「ニーズ (Needs)」を本学が持っている技術や特許など「シーズ (Seeds)」と結びつけるための情報システム「NSハイウェイシステム」を運用しています。

NSハイウェイシステムは、キーワード検索のほか、自然文（話しことば）、あいまい語による検索が可能です。また、文献・特許ごとに、検索する言葉の関連度を表示（マッチ度という棒グラフにより）することができます。

アクセス方法：北海道大学HPトップ▷研究・産学連携▷NSハイウェイ（専門家はどこ？）

地域の皆様へ

北大交流プラザ「エルムの森」

交流プラザ「エルムの森」は、2010年6月24日、「旧札幌農学校昆虫学及養蚕学教室」の建物から正門横に移転し、より多くの市民の皆様がご利用いただけるようになりました。

ここでは、学内のイベント情報や観光の案内、本学の各種広報誌の閲覧、大学紹介DVD視聴やインターネットを利用して本学に関する各種情報を検索することができるほか、大学構内を散策される方などの休憩場所としても利用できます。

建物内にある「エルムの森ショップ」では、文具や記念品などの北大グッズに加え、大学認定のハム、日本酒、梅酒、北海道大学出版会発行の書籍などを販売しており、軽食や飲み物を販売しているカフェもあります。

なお、「エルムの森ショップ」の平成21年度の売上は3千万円です。



総合博物館（本館・水産科学館）

本学には、札幌農学校の開校1876年（明治9年）以来、現在まで130年余にわたる研究の成果として、1万数千点に及ぶ生物のタイプ標本を含む総計4百万点を超える貴重な学術標本が残されています。1999年に創設された総合博物館は、それらの標本の多くを保管し、次世代へ伝えるとともに、研究はもとより、学生・大学院生の教育に活用しています。

水産科学館は本学函館キャンパスに位置し、1958年に開館した本館、1983年に増設された別館、および1988年に旧北洋研究施設を改装・整備した水産生物標本館から構成されており、広く学生、市民に公開されています。展示資料には海洋生物の標本、漁具資料、標本の水槽展示、北大の研究者が発見した魚の精密画のパネル展示など新しい展示も加わりました。



全長15mのニタリクジラの完全骨格標本（水産科学館）



デスモスティルス化石標本（本館）



深海性のサメ類ラブカ（水槽展示）（水産科学館）

植物園

北大植物園は本学の附属施設として研究・教育・実習を主な目的とし、古くから一般市民に公開され広く自然教育に役立つように運営されてきました。

園内は広さ13万3千㎡、110年前の自然地形に約4千種類の植物を栽培・分類し生態学的展示を行っています。特に北方圏冷温帯植物・北海道固有植物の収集と保存、外国産主要植物・エンレイソウの系統保存、北方民族資料の収集保存、北方圏動物・哺乳類鳥類の剥製標本の収集と保存及び重要文化財の建物などを公開しています。



博物館本館（重要文化財）

なお、平成21年度における入場料収入は1千7百万円で、植物園の管理運営費に充当されています。



バラ園



絶滅したエゾオオカミの剥製

動物病院

動物病院は、大学院獣医学研究科・獣医学部の教育研究施設です。動物達の病気の診断と治療を通じて動物福祉の向上に努めています。同時に、学生の獣医臨床教育ならびに高度先端獣医療の開発と難治性疾患の病態解明などの社会的使命を担っています。

なお、平成21年度は病院スタッフの増員、地域獣医師との連携強化による二次診療受け入れ体制の充実、汎用X線撮影装置などの老朽設備の更新・導入等の取組を行い、動物治療収入は1億4千2百万円で、前年度から2千2百万円の増収となりました。



公開講座

本学の研究の成果を公開講座として広く一般の方々に提供しています。講義形式のものから体験学習のようなものまでバラエティに富んだ講座があります。平成21年度は33講座を実施し、約1千5百人の方が受講されました。

なお、平成21年度における公開講座収入は9百万円で、公開講座の運営費に充当されています。

公開講座に関する情報は、本学ホームページで公表しています。



アクセス方法：北海道大学HPトップ▷ 広報・公開▷ 公開講座・オープンキャンパス

緑のピアガーデン

本学では、平成18年度から毎年8月に「緑のピアガーデン」を本学百年記念会館にて開催しています。これは、本学の美しい緑のキャンパスの夕べのひとときを開放し、多くの市民の皆様へ足を運んでいただくことにより、より身近に北大を感じてもらうことを目的として始めた催しです。メニューには、北大農場で生産された農産物を利用し、北大ならではのフードを用意するのが恒例となっており、とても好評です。

平成21年度から、最終日の土曜日は昼の2時からの開催としました。夕方の落ち着いた雰囲気とはまた違った、明るい緑の下でのピアガーデンもお楽しみいただけます。



北大キャンパスビジットプロジェクト（HCVP）

北大キャンパスビジットプロジェクト（HCVP）は、学生スタッフが主体となり、教職員と協働しながら、主に一般市民や観光客の皆様を対象としたキャンパスガイドを通し、本学の魅力を広く伝える活動を行っています。

平成21年度には夏と秋のツアーに加え、オープンキャンパス時には道内外からお越しの約200名の皆様にキャンパスツアーをお楽しみいただきました。

また、こうした活動の他、本学アドミッションセンター主催の「進学相談会」において在学生相談員として参加するなど、本学進学を目指す受験生（高校生等）の皆様への広報活動の一翼も担っています。



より良く知っていただくために

研究関係経費

平成21年度の研究関係経費の総額は237億円で、常勤教員一人当たり換算すると約1,140万円になります。

研究経費は、目的積立金の積極的活用と科学技術振興調整費の補助金化によって12億円増加していますが、受託研究等経費は6億円の減少、科学研究費補助金等も、21世紀COEプログラム（16年度採択分）の終了により3億円減少しています。

教員一人当たりの研究関係経費（年間）：約1,140万円
 研究関係経費（23,701百万円）÷常勤教員数（2,079人）

研究関係経費の内訳 (単位：百万円)

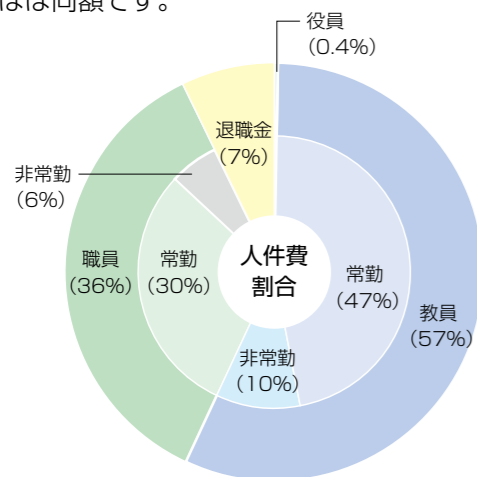
区分	20年度	21年度	増減額
研究経費	8,411	9,613	1,202
受託研究等経費	7,188	6,624	△ 564
科学研究費補助金等(直接経費)	5,917	5,577	△ 340
損益外減価償却相当額*	1,856	1,887	31
合計	23,372	23,701	329

*損益計算書に計上されていない経費で、国から出資された資産（1/2を研究用資産としています）や施設費補助金、目的積立金を財源に取得した研究用資産の減価償却費です。

人件費

平成21年度における業務費804億円のうち人件費は443億円で55%を占めており、「人が財産」である大学にとっては最大の費用となっていますが、人件費比率は前年度比0.9%の低下となりました。

常勤人件費は、国の総人件費改革方針を踏まえ抑制に努めていますが、非常勤人件費は、科学技術振興調整費や教育研究の高度化・活性化推進整備事業等の補助金及び寄附金等の外部資金を財源とした教職員の採用によって15億円増加しています。人件費総額は前年度とほぼ同額です。



人件費比率：55.1%
 人件費（44,284百万円）÷業務費（80,430百万円）

常勤人件費 (単位：百万円)

区分	20年度	21年度	増減額
役員報酬等	153	155	2
教員給与等	21,113	20,516	△ 597
職員給与等	13,597	13,259	△ 338
退職金	3,758	3,226	△ 532
計	38,621	37,156	△ 1,465

非常勤人件費 (単位：百万円)

区分	20年度	21年度	増減額
役員報酬等	3	3	0
教員給与等	3,485	4,371	886
職員給与等	2,150	2,726	576
退職金	23	28	5
計	5,661	7,128	1,467
合計	44,282	44,284	2

経年推移は53ページ参照

一般管理費

一般管理費は、大学の管理運営に要する経費です。平成21年度は37億円となり、前年度と比較して1億円減少しています。

業務費に対する一般管理費比率についても前年度に比べ0.2%低下し、4.6%となっていますが、これは主に建物新営・改修工事に伴う移転経費が前年度に比べ減少したことによるものです。

一般管理費比率：4.6%
 一般管理費（3,709百万円）÷業務費（80,430百万円）

経年推移は53ページ参照

北大フロンティア基金

大学の自主性・自立性をこれまで以上に発揮するために、2006年創設130年目の挑戦として、独自の基金を設けることが不可欠であるとの認識に立ち、広く企業、個人、同窓生及び教職員の皆様方にご支援をいただきたく「北大フロンティア基金」を創設いたしました。

北大フロンティア基金は、様々な分野を支援しています。

- 学生、留学生・国際交流支援
 奨学金の充実、留学生への教育的及び環境的支援の充実、運動部・文化サークル活動の充実、受験希望者への広報活動の充実
- 研究支援
 男女共同参画事業の充実、海外研修制度の充実、国際会議等の開催の推進
- 社会貢献活動支援
 総合博物館の充実、市民公開講座等の充実
- 卒業生・産業界等との連携支援
 同窓会との連携、産学連携の強化
- 学部等支援
 最新の教育機器、図書等の充実
- 施設・環境整備支援
 キャンパスの緑化、歴史的建造物等の維持・保存、バリアフリー施設の充実



女子ラクロス（2009年秋季リーグ）



剣道部（2009北海道学生剣道選手権）



混声合唱団（第48回定期演奏会）



馬術部（2009全日本学生馬術大会）

平成21年度収支状況 (単位：百万円)

繰越額	受入額	支出額	利息	期末残高
1,186	(1,612件) 374	98	2	1,464

平成21年度実施事業

学生支援を中心に以下のとおり実施しました。

- (1) 学生支援
 - ・本学が認定した各種学生公認団体の活動助成、学生の就職活動支援
 - ・企業説明会の開催等就職支援
- (2) 学部等支援
 - ・農学研究院本館南棟中庭整備【農学部】
 - ・入試広報のための道外高校訪問ほか【薬学部】
- (3) 留学生支援
 - ・急激な円高に伴い、生活環境が悪化している留学生への支援のために、留学生1人につき5万円を上限とした貸付制度による支援
 - ・留学生を支援する団体「北海道大学国際婦人交流会」に対して、同会の留学生のための冊子「札幌の暮らし」2000部の発行を支援
 - ・関道子留学生支援基金より、病気等で困窮している留学生に対して、支援金を給付
- (4) 研究支援
 - ・学術成果刊行助成（2件）

【問合せ先】
 北大フロンティア基金事務局
 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目（北海道大学事務局内）
 TEL:011-706-2012/2017 FAX:011-706-2092
 E-mail:kikin@jimu.hokudai.ac.jp http://www.hokudai.ac.jp/

北海道大学からのメッセージ